

令和6年度 宮城県「体験の風をおこそう」運動推進事業 「夢・HOCKEY・in はなやま」報告書

1 趣旨

トップアスリートの豊かな経験と高い技術に触れ、ホッケーを通して技術・知識の向上を図るとともに、望ましい生活習慣を身に付ける。

2 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

(企画・運営：宮城県「体験の風をおこそう」運動推進委員会)

3 共催 栗原市ホッケー協会

4 事業の概要

(1) 期日：令和7年1月10日(金)～11日(土) [1泊2日]

(2) 参加者

6団体98名(小学生34名、中学生23名、高校生20名、幼児1名、大人20名)

- ・築館スポーツ少年団
- ・一迫スポーツ少年団
- ・築館中学校ホッケー部
- ・栗原西中学校ホッケー部
- ・築館高等学校ホッケー部
- ・宮城クラブ

5 企画・運営のポイント

・栗原市出身で日本代表経験のある三橋亜記氏、狩野真美氏と現役日本代表の大場陽成選手(フリークス東京)、日本代表アシスタント松村洋介氏を招聘し実施した。

6 日程

	午 前				午 後			夜 間				
1/10 (金)								受 付	夕 食	技術指導 ワークショップ ①	入浴	消 灯
1/11 (土)	起 床	朝 食	部 屋 点 検	技術指導 ワークショップ ②	閉 会 行 事	昼 食	解 散					

7 主な活動内容

参加者は、宮城県内のホッケー部に所属する小・中学生と高校生、社会人チームであった。講師に、元日本代表で三度のオリンピックを経験している三橋亜記氏(現東京ヴェルディコーチ)、元日本代表の狩野真美氏と現役日本代表の大場陽成選手(立命館ホリーズ)、そして、元日本代表選手で現日本代表アシスタントコーチの松村洋介氏を招き実施した。(三橋氏が降雪の影響で11日のみの参加)

今年度は、小学生と中学生女子は三橋氏、狩野氏、大場選手からの技術指導、中学生男子と高校生は松村氏と戦術分析のワークショップという形で行った。

技術指導では、1日目は狩野氏、2日目は三橋氏を中心に指導が行われた。シュートやパスなど基本的な技術に加えて、細かいテクニックも指導していただいた。また、大場選手にはキーパーを集め、専門的な動きについて指導していただいた。2日目には小学生男子、小学生女子、中学生女子に分かれて他チームや異校種との交流によるゲームをするなど、子どもたちは楽しく活動することができた。ワークショップでは、日本代表としてどういった戦術を取り入れているのかなどを教えていただき、オリンピックでの実際の試合映像を活用し、チームごとに動きの分析をした。最後には自分たちのチームでは何を意識してプレーしていくかを発表し、松村氏からはチーム全員が同じ思いでプレーする大切さをお話しいただいた。閉会式では、プロになるために何が大切かを講師1人1人からお話しいただき、参加者は集中して耳を傾けていた。



「戦術分析等のワークショップ」



「基礎技術をレクチャー」



「参加者へメッセージを送る講師」



「ゲームを通して交流」

7 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：100% やや満足：0% やや不満：0% 不満：0%

(2) 参加者の声

- ・自分たちで試合を分析し、チームとして戦術を考えたことがなかったのでとてもいい時間でした。ぜひ学んだことを生かしたいと思った。
- ・ゴールキーパーだけで練習できたのでとてもよかった。動きが勉強になった。
- ・チームで話し合っ、絆が深まった気がする。大会で成果を発揮したい。

(3) 成果

- ・多くの参加者があり、世界を経験した選手の指導を真剣に聞いてみんな熱心に取り組んでいた。また、技術指導だけではなく、講師の先生の経験等を話してもらうことで、自分もそうなりたいと話す子もおり、キャリア教育につながった。
- ・中高生向けに松村氏にワークショップを開催してもらったが、参加者から高い評価をいただいた。日々の練習とは違い、戦術等をみんなで話し合う時間が今までなかったという声も上がっており、チーム力を高める貴重な時間になっていた。
- ・各年代、多くの参加者があったことで、参加者同士の交流場面が見られた。
- ・今年度も大場選手が参加したことでゴールキーパーはそれに特化した練習をすることができ、参加者にとって有意義なものとなった。

(4) 課題

- ・インフルエンザ等の感染症が流行っている時期であり、直前までキャンセル等があり、団体をまとめる指導者が大変そうだった。開催時期について検討が必要である。

担当：企画指導専門職 鎌田 浩徳